

スワップボディの鉄道輸送 【過去の事例】

2018年10月11日

日本フルハーフ(株)

《当該システムの概要》

スワップボディを直接鉄道貨車に載せる方式。
1997年から試作車が制作され、1998年に国の支援を受けた「スワップボディ導入実証実験事業」が開始。

- 1) 1998年2月に、東京(夕)～大阪(夕)で試験輸送
- 2) 1999年4月から東京貨物(夕)ー福岡貨物(夕)間でスワップボディ(4個)で鉄道輸送開始

※スワップボディ12台、トラック6台及び

専用荷役装置(グラップルアーム)2基を製作

スワップボディの鉄道輸送【過去の事例】

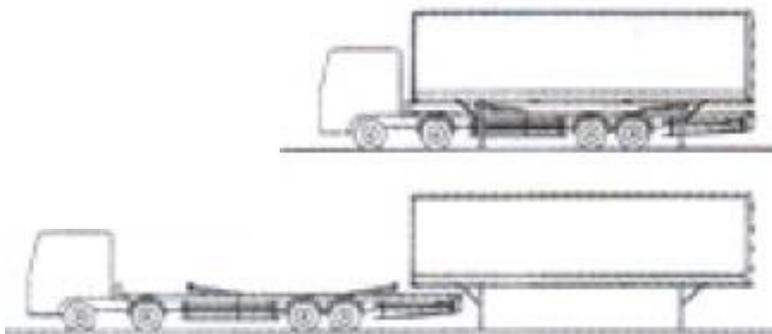


スワップボディ(SB)の脱着



鉄道貨物に積載

グラップルアーム



スワップボディ(SB)の脱着方法

S	特徴：パンタイプ（後方開き）、支持脚付き 寸法：長さ 9.41m(9.27m)×幅 2.49m(2.38m)×高さ
B	2.60m(2.30) [()内は内寸] 自重：2.9トン 積載量：12.5トン 総重量：15.4トン
ト	特長：ストローク 30cm のエアバック方式で SB を上下
ラ	させることが可能
ッ	全長：11.99m 全幅：2.49m 全高：2.80m
ク	車両：9,500kg 最大積載量：15,400kg 車両総重量： 24,900kg

スワップボディ(SB)の諸元